令和4年度　第2回　富田林市交通会議　議事録

主管課：富田林市　道路交通課
日　時：令和4年7月20日（水）午後2時～4時
会　場：富田林市消防本部　４階　講堂

- 出席委員　27名
  三星委員、柳原委員、酒井委員、中西委員、岡部委員（野村氏代理出席）、
  芝池委員、髙平委員、石田委員、南野委員、西田委員、中村委員（新規委員）、
  池田委員、松永委員、天堀委員、塩野委員（寺井氏代理出席）、秋元委員、
  北野委員、下垣内委員、西谷委員、芝辻委員、山原委員、中塚委員、松田委員、
  金銅委員、北村委員、柳田委員、小野委員
- オブザーバー　１名
  彼方上地区まちづくり協議会　藤原　氏

- 欠席委員　1名
  豊福委員

- 公開・非公開の別　公開

- 傍聴人人数　8名　※定員5名を超えることを委員により承認。

- 会議次第及び議事要旨

１．議事

（１）令和4年度　富田林市交通会議補正予算（案）について
事務局から事務局から資料２に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

２．報告事項

（１）彼方上地区公共交通の実証運行について
事務局から資料３に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

（２）「富田林市地域公共交通計画」の策定概要について
事務局から資料４に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

３．その他
事務局からレインボーバスのあり方検討分科会次回開催日程（令和4年8月18日（木）午後2時～）、交通会議次回開催日程（令和４年10月19日（水）午後2時～）を案内した。

- 資料

資料１　　委員名簿
資料２　　令和4年度　富田林市交通会議補正予算（案）
資料３　　彼方上地区公共交通の実証運行について
資料４　　「富田林市地域公共交通計画」の策定概要について

- 議事概要

１．議事
（１）令和4年度　富田林市交通会議補正予算（案）について

石田委員　　先に藤沢台地区で同様の話が出ていたと思うが、今の説明では藤沢台について何も説明がなかったが、どうなっているのか。

事 務 局　　藤沢台地区については、先に検討を進めさせていただいていたが、コロナ禍もあり地域での話し合いについて引き続き協議中である。
基本的には、地域住民主体で動いていただいており、市のみで前に進めるのは難しい。彼方上地区についてもコロナ禍で一時検討休止となったが、実証運行にむけ6月に地域で合意が図られたため、今回の実証運行決定に至った。

柳原議長　　実証運行ルートの設定経緯を補足説明いただきたい。ルートは、汐ノ宮駅へ接続している一方、生活施設にはアクセスできない。また、南ルート側の地域では河内長野駅周辺が生活圏と聞いているが、ルートに河内長野駅は含まれていない。

事 務 局　　滝谷不動駅と河内長野駅を結ぶルートが当初想定されていたが、青山台や嬉桜ケ丘などの一部の地域において今まさに移動に大変困っている状況であること、また、需要を見極める意味も含めて、最小限のルートを設定することで検証のしやすさを優先したことを鑑み、まずは最寄り駅である汐ノ宮駅を起点としたルートを設定することにしたと伺っている。実証運行結果を踏まえつつ、今後ルートの改善等を交通会議や地域、関係機関とともに検討したい。

柳原議長　　着手できるところから始めるものと理解した。

南野委員　　車両はどのような種類・サイズを検討されているか。
また、実証運行ではこのルートで結構だが、個人的には、河内長野駅～嬉～汐ノ宮駅のルートを期待したい。

事 務 局　　車両は、セダン型（4人乗り）を想定している。ルートは、実証運行を踏まえ検討する。

三星委員　地元で、車いすの利用者や、目の不自由な方はどの程度いるか。車両は、車いす需要に対応できるか。

事 務 局　障がい者も利用できる車両とするよう運行事業者選定を検討している。地域内の障がい者手帳所持者は80人程度だが、障がい種別や程度別等の内訳は把握していない。

三星委員　実証運行では、利用者数だけでなく、地域公共交通を利用する必要のある障がい者の方のニーズを把握したうえで進めていただきたい。車両は、国で「ジャパンタクシー」の普及を進めている。

石田委員　利用したい方が車両定員の4人を超えた場合はどうなるか。

事 務 局　車両定員４人を超えた場合の対応としては、運行事業者にて追加の車両を速やかに調達していただけるかどうかも、運行事業者選定時に考慮しようと思っている。まずは４人乗りのセダン車タイプで検討をし、実証運行で利用が多ければ、車両の大型化を検討したい。

酒井委員　2点ある。4ページでは運行期間が本年10月1日からになっているが、8ページでは11月以降とあるが、いずれが正解か。
もう1点は、全ルートを車両1台で対応するのか。

事 務 局　10月1日から翌年３月３１日までを契約期間とし、その間、いつ実証運行をするかについては運行事業者と地域とで話し合って決めることになる。予定としては、10月下旬から11月頃の実証運行開始を見込んでいる。
車両は、全ルートを1台で運行するよう考えている。

三星委員　彼方上地区の方が熱心なことは承知したうえで、実際の運行にあたっての地元の空気はどうか。

オブザーバー
藤原氏　地元としては、検討を平成30年以前から4年以上継続してきたからこそ、まずは運行を開始し、次につなげていきたい。河内長野駅乗入等を検討すると、他市との調整が必要となり、今年度内には運行できない。
実証運行では、「誰も乗っていない」状況とならないよう、PRが重要と考える。免許返納を検討中の人もおり、ニーズというより危機感が大きいなか、まずは実証運行に取組み、本格運行に向けた費用負担等の具体の協議を地元で進めたい。

柳原議長　　補正予算（案）は、原案通り認めてよいか。

一同　　異議なしの声。

柳原議長　　承認とする。

２．報告事項

（１）彼方上地区公共交通の実証運行について

（※１．議事（１）令和4年度　富田林市交通会議補正予算（案）についてと一体的に協議）

（２）「富田林市地域公共交通計画」の策定概要について

柳原議長　　運輸局より補足があるか。

中西委員　　地域により特性や状況が異なる中で、地域をよくご存じの委員よりご意見をいただき、より良い計画にしていただきたい。

柳原議長　　各委員より、現状や課題認識を伺いたい。

石田委員　　高齢者の免許返納については、様々な対応を考えていかなければならないと思う。

南野委員　　高齢者で免許返納を検討される方が増えている。高齢者が地域公共交通を利用しやすくなればよいと思う。本計画策定では、石川より西側の金剛地区等は地域公共交通がよく発達している一方で、石川の東側地区では格差を感じるため、重点的に検討いただきたい。

西田委員　　ニュースでは、交通事業者が人件費を削減していると聞く。人を減らすとサービス低下に繋がる。富田林駅は有人駅だが、インターホンを押さないと駅員に対応してもらえない。また、インターホンを押しても混みあっていますというアナウンスが流れ、待つ必要がある。こうした不便を改善いただきたい。不可能であれば、ホームの段差を解消いただきたい。鉄道事業者によりバリアフリーへの対応が異なり、例えばOsakaMetroでは、介助者なしに車いすで利用できる。会社の経営が厳しいことは承知しており、近鉄では運賃値上げとする路線もあると聞く。一方で、利用者からすると、利用しづらい鉄道やバスは利用しない。

柳原議長　駅の無人化等で、車いすの方は鉄道を利用しづらいことが問題になっている。車いすの方でも自由に乗れることが、これからの共生社会の中で重要なことである。

中村委員　近鉄バス、南海バス、レインボーバス等が豊富に走る地域に居住している。一方で、バスの少ない地域があるとのことなので、PTAでも意見を把握し、本計画に反映したい。

池田委員　私の自宅は交通不便地域にあり、不便を感じる。地域公共交通が充実すれば、市内の友人と往来しやすくなるなど、地域が活性化するのではと期待している。

松永委員　会議だけでなく、実際に行動して分かることもある。ワークショップや市民アンケートの結果等を踏まえ、議論が活性化すればよい。

天堀委員　実際に不便を感じている方の声を、市民アンケートやワークショップでどれだけ収集できるかで議論が活性化するように感じる。

塩野委員
(代理：寺井氏)　近鉄バスの事業運営の協力に感謝する。当社の利用者数は、コロナ禍前と先月の各6月で比較すると、9割程度まで回復してきた。一方で、富田林市内路線は、元々収益性のある路線ではなく、厳しい状況にある。サービスを提供していても、利用いただかなければ意味がないので、地域の方の意見を聞きつつ進めていきたい。

秋元委員　利用者数は、全社的にコロナ禍前比20%減の状況にあるほか、コロナ禍終息後でも、コロナ禍前には戻らないと想定している。また、軽油単価高騰により、二重苦である。ご利用いただいてこそのバスなので、地域公共交通計画が地域公共交通を盛り立てるきっかけになることを期待する。

北野委員　コロナ禍以前より利用が減少しており、経営が厳しい状況にある。ご意見をいただきつつ、運行を進めていきたい。

下垣内委員　車いす利用者の方等へなるべくご不便をかけないよう、各駅で連携を図っている。どうしても駅員数に限りがあり、インターホンを活用している。インターホンは、つながりにくさの改善を図っている。なお、利用時間を決めて予めご連絡いただければ、駅員を事前に派遣することが可能である。

鉄道経営は厳しい状況にある。人員削減に限度があり、運賃値上げも検討している。お客様にご迷惑をおかけしないよう、ニーズを踏まえ運行を続けたい。

西谷委員　タイトなスケジュールのなかで、地域等の声を踏まえて策定を進めていただきたい。
鉄道の利用状況は2020年度以降特に厳しい状況にある。コロナ禍終息後ももとには戻らない想定のなか、バリアフリー等のご意見を含め、様々な意見を踏まえ改善していきたい。

芝辻委員　タクシー業界では、コロナ禍前の利用状況に戻らないと見込んでいる。一方で、地域公共交通はぜひ活用いただきたい。5～15年先には、免許返納者の移動手段がなくなっている可能性がある。現時点から地域公共交通を利用する癖をつけていただきたい。デマンド型の乗合交通は、地域の方の熱意がなければ成功しないと考える。弊社は様々な地域でデマンド型乗合交通に取組んでいるが、行政ではなく地元の自治会等が「乗らないと」という意識でなければ継続しない。
弊社ではジャパンタクシーを数十台導入している。東京でジャパンタクシーの普及が進んだのは、東京五輪に際しての国の補助金効果が大きかった。大阪府では、今年より補助が拡充となり、今後UDタクシーの導入が進むと考えられる。この車両は、車いすのままで利用できる一方で、車両の床面がセダン型と比較して高いため、乗降の際に注意が必要である。
弊社では、免許返納者への運賃1割引や、妊婦の方への支援等に取り組んでいる。このようなサービスを活用いただき、地域公共交通を利用する癖をつけていただきたい。

山原委員　弊社ではコロナ禍以降、消毒、車内の換気等に取り組んでいる。本計画策定後も、引き続き安全第一でお客様を輸送することを重視したい。

中塚委員　本日の議題に藤沢台七丁目地区の話題を含めなかった経緯等について、事務局から説明が必要と考える。
彼方上地区の実証運行は、車いす利用者への対応や定員を超えた際の対応などを事前に明確にするべきと考える。
本日の議題では、前回のレインボーバスのあり方検討分科会についての報告がなかったが、どのような協議をしたのか。

柳原議長　分科会の内容は、後程、事務局より回答いただく。

金銅委員　私事ではあるが、同居している高齢の家族は現在も自家用車の

運転をやめたがらない。自宅近くには、電車、路線バス、コミュニティバスがあるため、家族は免許返納を勧めている。
彼方上地区の実証実験の結果、このような方の行動変容につながればよいと期待する。

北村委員　交通事業者は車いすや乳母車を利用する方の声から「なぜ使わないか」、「何が使いにくいか」、という視点で改善点を見つける必要があるのではないか。

柳田委員　本市で地域公共交通計画を策定するためには、本市の特徴に沿う必要がある。東西の交通格差、人口減少、少子高齢化等の課題に対し、本市のまちづくりの方向性を踏まえ、関係各者が知恵を出し合い、本計画の策定を進めていただきたい。また、高齢者、子育て、障がい者など、福祉への視点を重視することで、今後のまちづくり施策に繋がるのではと考える。

小野委員　本計画の策定によって見えてくる地域像もあるのではと楽しみにしている。今後も勉強しながら、本計画策定に関わっていきたい。

岡部委員
(代理：野村氏)　公共交通事業者は、コロナ禍や燃料費高騰で厳しい状況にあるとのことだが、大阪府では公共交通事業者への補助事業を設定しており、UDタクシー等の導入支援を進めている。
本計画策定が地域の活性につながればよいと考える。

芝池委員　富田林市では、高齢者による事故が全体の約半数以上を占めている。アクセル・ブレーキの踏み間違いによる事故も発生しており、免許返納を推奨している。しかし、富田林署管内では、免許を返納すると移動が困難な地域があるため、返納率は低い現状にある。地域公共交通を活用いただくためには、地域にどのような交通があるのか認識していただく必要がある。観光、医療、福祉等のルートが増えるほど認識度は向上すると考えられるため、あらゆる交通資源の増便策等の検討も含め、交通会議で検討していきたい。

髙平委員　南河内地域では、各市町村で地域公共交通計画の策定を進めているが、高齢化や交通不便地域等、各市町村の共通の課題がある。自治体同士で情報を共有し、本計画に反映いただけばよいと考える。
デマンド型交通は、利用者の輸送ニーズに応じた柔軟な設定が可能である。彼方上地区の実証運行では、バス停以外でも乗降できる方法なども含め、利用しやすい形態を検討いただきた

い。

中西委員　計画策定により見える地域像があるとのご意見があり、納得した。今後予定している会議、アンケート、ワークショップ等の内容を踏まえ、計画策定を進めていただければと考える。

三星委員　本市では、初めに不動ヶ丘で無償運行の検討が始まった。続いて、彼方上地区での取組が進んでおり、関係各者のご努力に敬意を示す。
こうしたなか、大きく以下のとおり改善すべき課題が見えてきている。
1点目に、ハード、ソフトの両面でシステムの課題がある。ハード面では、先ほどの議論の通り、乗合運送車両における車いすへの対応と、定員を超えた際の配車対応等の課題がある。実証運行のなかで、様々な工夫により障がい者対応等を進めたい。ソフト面では、1日の本数、始発・最終時刻、バス停の設定等の課題があり、実証運行によって見えてくる地元のニーズを参考に、改善していきたい。
2点目に、富田林市外へ出る場合の交通についての課題がある。費用負担者などについて、他市町村と連携し、市域や制度の枠を超え、この課題に取り組んでいきたい。
3点目に、財政についての課題がある。デマンド交通は、利用者1人あたり数千円程度の市費負担となる可能性がある。市の熱意を実現するためにも、地域の方にたくさん利用いただきたい。

柳原議長　高齢化に伴い、免許を返納したい人がいる一方で、地域公共交通は財政上、維持確保が難しい現状がある。そのため、本計画を策定し、地域公共交通を維持することで、自家用車がなくても移動できるまちをつくることが最終的な目標になる。
このほか、福祉有償運送等を含め、利用者自らが交通モードを選択できる環境の構築が理想である。
最後に、前回のレインボーバスのあり方検討分科会にかかる説明を事務局よりいただきたい。

事 務 局　令和4年4月26日にレインボーバスのあり方検討分科会を開催した。本分科会では、一枚の地図をもとに、市民委員を中心に意見を出し合った。そのなかで、レインボーバスの路線は、路線バスや病院送迎バスと重複しており、仮にレインボーバスを廃止した場合、多くの方が路線バスに移行可能ではとの意見があった。金剛地区には、路線バスが多くあることから、交通不便地域等へレインボーバスを移行することも検討してはとの意見があった。また、交通不便地域に移行する場合、車両は、現行

のものを用いるか、あるいはより小型化してもよいのではないか、との意見があった。このほか、便数の少なさが利用の少なさに影響しているのでは、との意見や、輻輳の問題はあるが、レインボーバスを金剛駅に乗り入れてはどうか、などの意見があった。
こうした意見を踏まえ、事務局で意見を整理のうえ、交通会議に今後提示できればと考えている。

３．その他

事 務 局　　次回レインボーバスあり方検討分科会は、令和4年8月18日（木）14時より、次回交通会議は、令和4年10月19日（水）14時より、いずれも市役所内会議室での開催を予定する。

以上